



私は半年前に大阪へ来ました。初めて日本に来た時、期待と不安が入り混じった気持ちでしたが、大阪での生活は私に多くの驚きと感動を与えてくれました。まず、大阪の街はとてにぎやかです。心齋橋や道頓堀のような観光地にはたくさんの人がいて、昼も夜も活気があります。日本の大都市の中でも、大阪は特に「食の都」として有名です。たこ焼きやお好み焼きはもちろん、大阪の人々が大好きな「串カツ」も何度か食べました。大阪の食べ物は美味しいので、食べるのが楽しみの一つです。また、休日には、友達と一緒に大阪城や天王寺動物園を訪れたり、ショッピングを楽しんだりしています。大阪城は歴史的な建物で、特に桜の季節に訪れた時は、美しい景色に感動しました。大阪の人々はとても親切です。道に迷った時や、店で買い物の時など、どんな時でも温かく対応してくれるので、異国であるにもかかわらず安心して生活できます。仕事面では、最初は不安がありました。新しい環境に慣れるまで時間がかかりましたが、幸運にも多くの優しい先輩方がいて、いつも親切に教えてくれます。わからないことがあれば、丁寧に説明してくれるので安心して仕事を続けられました。さらに、上司もとても温かく、時々アドバイスをしてくれたり、仕事の進め方を指導してくれます。職場の雰囲気は和やかで、みんなが協力し合いながら真剣に仕事をしています。私はこの職場で働くことに大きな満足感を感じています。今の生活にとっても満足しています。大阪の生活と仕事の両方が私にとってかけがえのない経験です。これからもこの素晴らしい時間を大切に、もっと努力して自分を成長させていきたいと思います。いつかこの時間を振り返った時、素晴らしい思い出として心に残るよう、毎日を大切に過ごしていきます。



日本に来て、最初に驚いたことの一つが食事週間の違いでした。食事の内容やマナー、食べる時間など、ベトナムと日本では多くの点で違いがありましたが、それらを学ぶことで新しい発見や感動を得ることができました。

まず、日本の食事で印象的だったのは、「一汁三菜」というスタイルです。一つの主食（ごはん）に、おかずやお味噌汁がついているのは、とてもバランスが良いと感じました。ベトナムでは一品だけの食事が多いこともありますが、日本では栄養バランスを重視していることに感心しました。また、季節の食材を大切にする日本料理は、季節ごとの味を楽しめる素晴らしさがあります。次に、食事のマナーについても驚きました。たとえば、「いただきます」や「ごちそうさまでした」と言うことは、料理を作ってくれた人や食材に感謝する気持ちを表しています。この文化に触れることで、私自身も食べ物を無駄にせず、大切にする意識が強くなりました。

さらに、日本では食事の際に音を立てないのが一般的ですが、ラーメンやそばを食べるときには音を立てても良いということを知り、面白いと思いました。特に初めてそばをすすって食べたときは少し難しかったですが、周りの人に教えてもらいながら楽しむことができました。日本の食事習慣を学ぶことで、私は食ることの大切さや、感謝の心を改めて感じました。これからも日本の食文化を楽しみながら、自分の国の料理と比べることで、さらに食についての理解を深めていきたいと思います。



人々に誕生日について色々な思い出があると思います。私にも誕生日について思い出がたくさんありました。とりあえず、誕生日というシンプルな言葉について皆さんはどう思いますか。私はこのシンプルな言葉に深い意味があると思います。誕生日というのは当然生まれた日と言えば間違いないです。つまり人生の始まりです。この特別な日についてミャンマーの習慣を著しながら私の誕生日の事を教えたいなと思いました。

私は一九九九年一月四日、ミャンマーの（独立記念日）に生まれました。私が生まれたとき病院の料金を払わなくてよかったと父と母からききました。そして医者と看護師からも誕生日を祝ってもらいました。父の社長も病院に来て補助金をくれました。両親はそのお金を寄付のため使いました。その日から毎年私の誕生日になるとできる事から寄付する習慣をやってきました。あたりまえのようにミャンマー人は誕生日仏塔に行って祈る人もいるし、自分の家で家族と時間を過ごす人もいます。そして現代の若者は友達とパーティーをしたり、どこかへ行って誕生日を祝ったりする人もいます。私も誕生日に早く起きて家族と仏塔に行って祈りました。そして帰りに寄付するため焼きビーフンを作って家の周りに住んでいる各人に配りました。焼きビーフンを作った理由もあります。ミャンマー人は昔から焼きビーフンを（長い時間生きますように）と願いながら寄付のため作ったと知りました。そして私の誕生日は（独立記念日）ですから、各地に運動会があってとてもにぎやかでした。その日友達はケーキとたくさんのプレゼントを買ってきて誕生日を祝ってくれました。そのあと私と友達各地の運動会へ行って参加したりして誕生日を楽しく過ごしました。

最後に言いたいことは、誕生日になると一年ずつ年をとって自分の時間が少なくなるのを意識して、私たちを育ててくれた父と母に感謝の気持ちを忘れずに良い事をして恩返ししながら生きるべきだと思いました。

世界で人生の経験は人によって違いますが今は私の経験について教えて言うと思っています。私の家族は農業をやって生活のため頑張っていました。私の家族は色々な問題があって私は中学生までに学校もやめてしまった。勉強もよく出来なかった私が成人になると何をやりたいかはっきり決められなかった。時々自分に嫌だと思っていました。でも母はいつも君なら何でも出来るよって応援してくれました。

ある日に私は家族に別れて1人町で住んでいて色々な仕事をして家族に少し支えることが出来ました。初めての生活は大変でしたけど諦めないで頑張っていました。私住んでいる町から田舎まで5時間ぐらいかかって家族に会いたい時間も帰って会えるから大丈夫でした。その時から私はちょっと強くなりました。私は家族のため外国へ行くと思って外国のことについてインターネットで調べてみました。色々な国の中で日本は経済がすごくきれいな国です。

だから日本へ行って仕事を勉強したいので日本語を勉強しました。初めて勉強する時間は出来るかなと思って迷っていましたが、やっと出来て嬉しかったです。日本へ来て色々大変でしたが諦めないで頑張っていくと思っています。今は家族に支えることも出来て嬉しいです。日本人も優しい人が多いから大丈夫です。だから自分が弱いでも諦めないで前を向いて進むのが大事だと思っています。これは私人生の経験です。だから皆に伝えたいことはどんなことがあっても諦めないでください。最後まで読んでくださいますようお願いいたします。

あなたは、日本のお風呂といえば何を考えますか。温泉でしょうか、露天風呂でしょうか。いろいろありますが、私の場合銭湯です。

ベトナムには、毎日お風呂に入るという習慣はありません。ですから、日本へ来たばかりのときは、日本人が毎日お風呂に入るということを知って、とても驚きました。

家にお風呂がある人は、家のお風呂に毎日入りますし、家にお風呂がない場合も、毎日のように家の近所にある銭湯に行きます。このような習慣を持っている民族は、広い世界の中でもあまりないと思います。

初めて銭湯に行ったときに、驚いたことがたくさんあります。最初、建物がお寺や神社のようなとても古い建物だったこと。第二に、入口が男湯と女湯に分かれていたこと。

第三に、ほかの人の前で服を全部脱いでお風呂に入らなければならなかったこと。まずは、お風呂のお湯の温度がとても高かったことです。

しかし、今では日本銭湯にも慣れつつあります。なにも気にせずに熱いお湯にゆっくり入れるようになりました。私もかなり日本人に近づいてきたということでしょうか。

私は、日本に来てから、インドネシアと日本の文化のちがいに気がつきました。いろいろなところでちがいを見つけましたが、いくかおもしろいことを話したいと思います。

まず、時間についてです。日本では、時間をとても大切にします。いつも時間まもって、何をする時でも、きっちりと決まった時間にやります。たとえば、電車やバスも時間どおりに来ます。しかし、インドネシアでは、時間に少しゆるいところがあります。

たまに、電車やバスが時間どおりに来ないこともあります。私は、日本に来てから、もっと時間をまもることがたいせつだと思うようになりました。

次に、あいさつのしかたについてです。日本では、あいさつがとてもたいせつです。インドネシアでもあいさつはありますが、日本のようにたくさんのきまりはありません。それでも、どちらの国でも、あいさつをすると、気持ちがよくなります。

また、日本では家の中に入る時、くつをぬぐ文化があります。インドネシアでは、くつをぬがなくてもいい場所が多いです。日本の家では、くつをぬぐことで家をきれいにすることができます。さいしょは少しなれませんでした。今ではこの習慣がいいと思っています。

さいごに、日本ではごみをしっかり分けることがたいせつです。プラスチックや紙、もえるごみともえないごみを分けます。インドネシアでは、あまりごみを分ける習慣がありません。日本人たちは、環境をたいせつにしているから、こういうルールがあると思います。

このように、日本とインドネシアの文化にはたくさんのちがいがありますが、どちらもおもしろいです。私は、これからも日本の文化をもっと学んでいきたいと思っています。

インドネシアの中部ジャワで生まれ育った私はなぜ日本語を勉強して、日本で働きます。昔は学生のころには外国に行くつもりはありませんでした。

しかし社会人になってから色々なインドネシアの会社で働いてみると“やっぱり自分は経験と知意識をまだまだ磨かないといけない”と思いました。

前の職場はインドネシアにある日本の会社で機械を操作する作業です。

その会社に日本人と初めて会って、新しい言葉と言語を教えてもらって、日本語で簡単な会話をして見たら“楽しい・面白い”そこから日本語を知りました。

インドネシアにある日本語学校に入学しました。そこから日本語を学びながら日本の生活習慣についても習いました。

2016年3月6日に日本に入国しました。これが私の価値観を変える大きな転機となりました。

最初は日本に来てなかなか日本語の地域の言葉「方言」を理解するのが難しかったです。

そこで色々な地域のコミュニティに参加したり地域の人と会話の体験をしました。

人に何かを伝える際、伝え方によって相手の受け取る印象は異なります。

そして、言葉の選び方を考えるようになって指導の幅が広がります。

ミャンマーでは12月に渡る季節のお祭りが開催されます。これらの祭りの中で4月のティンヤン祭りに次いで楽しい祭りは10月のタディンユット祭りです。水祭りは4月に行われ、火祭りは10月に行われます。”THADINGYUT”祭りはミャンマーの仏教徒のための宗教的な祭りでもあります。お釈迦様の説かれた法は親に感謝する法です。この説教はタディンユットの満月の日に説かれたので、その日はアビダンマの日としても知られています。

今月は、恩人が祖父母、両親、教師に敬意を表します。それから、村のおじ、おば、おとしよりに敬意をあらわします。大人の祈りの声が心を冷やします。火祭りは3日間開催されます。夜に寺院ではろうそくや花がそなえられます。1000本の石油ランプと1000本の花で飾って、仏陀にささげました。

私のふるさととはミャンマーのまん中にあります。その者市はマンダレー”MANDALAY”と呼ばれます。私たちのまちでは有名なマンダレー山と古代の歴史的な場所もたくさんあります。タディンユットまつりは毎年10月に長く開催されています。その月は蓮の花がさく月です。おだやかな冬の季節が始まる月でもあります。今月、私たちのまちで有名なまつりがあります。それはマンダレー山まつりです。もうひとつの方法は、チャウトージーパゴダフェスティバルと呼ばれます。毎年私たちのまちのひとびとがまつりにさんかします。朝、家族といっしょに山へ巡礼に行きます。午後は山でお弁当を食べながら休憩します。山から見る景色はとても気持ちが良いです。夜にはにぎわういちばもあります。おまつりのいちばをさんさくした後、家にかえります。かえりみち、月の美しさがすばらしかったです。

各家には堤灯や花火がかざられまつりをむかえます。このきかんは学校や会社が休みになるため、こどももおとなもタディンユットまつりにさんかします。よるには、パゴダにオイルランプをそなえたり、花火を打ち上げたり、風船をとぼしたりして、タディンユットまつりを祝います。かそくで風船をとぼすと、風船が上がるまで見守って賞品をねだります。私たちは子供の頃から、このおまつりが来るとかぞくといっしょにすごすのがいちばんたのしいです。

タディンユットまつりのよるの光のうつくしきは、見る人によるこびと幸せをもたらします。このまつりはミャンマーの人々の文化と宗教を取り入れたまつりです。タディンユットまつりは、ミャンマーの人々のかわいい伝統的なまつりとして今でも記憶されています。

日本に来て2年が経ちました。最近、友達と親戚からきれいになつたねと言われました。

理由を聞かれて、私の答えはいい食事の方法を覚えたからです。良い食事は私の胃袋を満足させ、健康な体を作ってくれると同時に、私の生活と仕事も豊かにしてくれました。私は、日本に来たばかりの時、一番困った事は食事でした。出勤日のお弁当は本当に困りました。最初の頃作る時間を短縮する為に、一つの弁当箱にご飯とおかずを無造作に入れました。

すると昼ご飯の時、全てが混ぜてしまった、食欲もなくなりました。ある日私はお弁当を忘れて、工場で注しなければならないことになりました。そして、初めて食べた日本のお弁当に大満足でした。味が美味しくて、食材の種類が豊富で、入れ方も良かったです。あれから、私のお弁当の研究が始まりました。私はよくスーパーやコンビニへお弁当の形と種類を見に行きました。しかし実際に自分で作ってみると、出来は想像と大きく違って、うまく作れませんでした。諦めようとした時に、同僚との雑談が私の考えを変えてくれました。彼女は五人の子供の母親で、毎日五時に起きて、夫と子供達の為に弁当を作ります。

私はこれにびっくりして、彼女に毎日大変なのに、何故外で頼まないのと聞きました。

彼女は笑いながら、大変じゃないよと言って、理由をこう説明してくれました。

ある日、近所の方が茶道の体験教室に誘ってくれました。茶道は、お客様にお茶を出して歓迎する日本の伝統文化の1つです。体験教室の当日、近所の方はきれいな着物を着て私を出迎えてくれました。

お茶を出す部屋はとてもせまくて、入口も小さいです。部屋がせまいのは、お茶を出す人と、出される人が仲良くなるためだそうです。部屋に入ってすわると、お菓子が出てきました。お菓子は、木でできた小さいフォークのようなもので食べました。とても甘かったです。それから、きれいなコップに入ったお茶が出てきました。お茶は、いつも飲んでいるお茶よりずっと味が濃くて、苦かったです。私はお茶を飲んでからお菓子を食べたかったのですが、茶道では、甘いお菓子を食べてからお茶を飲むと、お茶のおいしさがよくわかるため、お菓子のほうを先に食べるのだそうです。お茶を出してくれた人から聞いたのですが、きせつやお客様に合わせて、かざる花やコップも変えるそうです。

日本では、最近茶道をする人は少なくなっているようですが、私はいい文化だと思うので、この文化を、いつまでも守ってほしいです。